

論文内容要約

論文題目

より高い視力予後を目指した増殖糖尿病網膜症の硝子体手術治療戦略の構築

責任講座： 眼科学 講座
氏 名： 西 勝弘

【要約】

糖尿病網膜症は本邦の失明原因の第二位を占めており、糖尿病患者の QOL(quality of life)を著しく低下させている。糖尿病網膜症の早期診断のためには、内科にて糖尿病と診断されたら眼科へ早期に受診することが重要である。

増殖糖尿病網膜症にまで進展してしまった場合には硝子体手術が行われるが、近年手術機器の発展により、その適応は拡大している。手術そのものの安全性の向上もあり、治療目的が従来の失明予防からより高い視力予後を目指すことへ転換してきている。より高い視力予後に関連する可能性のある因子としては全身因子、眼局所因子（術前因子、術中因子、術後因子）など複数あることが考えられるが、これまでに明確に示されたものはなかった。真に関連する因子が明らかになれば、増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術治療をより発展させることができると考えられた。

本研究は、山形大学医学部附属病院眼科にて初回硝子体手術治療を受けた増殖糖尿病網膜症患者を、診療録ベースに後ろ向きに検討した。全身因子、眼局所因子と術後視力の関連につき統計学的に検討したところ、術前の病態の重症度が術後視力に関連した。

網膜症の重症度が高いと術後視力が不良となることが明らかになったことから、これまで以上に内科、眼科間の連携を強くし、糖尿病患者の眼科受診を啓蒙することが重要と考えられた。視力予後を高めるためには、網膜症として重症化する前に硝子体手術治療へ踏み切ることが必要であることが明らかになった。